

SUPPORTERS

サポーターズ No.157 2021 春号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 911 名 施設数 135 (R3.2.12 現在)

「supporters (サポーターズ)」とは…

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形のsを加え、supporters: 支える人たち(造語)の意味です。



訂正とお詫び

No.156 号 11 ページ「事務局からのお知らせ」にて、QR コードが登録フォームと解除フォームとで反対になっていました。引き続き本誌においても掲載しております。訂正してお詫びいたします。

～ 会報部よりごあいさつ～

本誌は今回、コンセプトを「10月6日 JPTA 研修開催指針 ステージ4になって」、テーマ「スマートライフで動き出す」と題し、各方面に原稿を依頼いたしました。ステージ4の期間は今回3ヶ月弱で、企画立ち上げ以降、JPTA 研修開催指針は2020年12月1日現時点で「ステージ3」、2021年1月12日には「ステージ2」となりました。

当会でも ICT を使用した催しがありました。内閣官房の新型コロナウイルス感染症対策推進室「スマートライフのために」を実行中です。今回のテーマのとおり、「動き出し」ました。

さて「スマートライフ」での「3密」回避も大事ですが、基本的な感染予防、標準予防策が各個人で実行されなければ「スマートライフ」も意味をなしません。ご承知とは思いますが、今一度ご確認されることを推奨いたします。

・日本理学療法士協会ホームページ

新型コロナウイルス感染症 会員向け感染予防対策動画 YouTube にて公開中
(国立国際医療研究センター監修)

・内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策推進室ホームページ

ちなみに当院、理学療法科では、アシモフのロボット3原則をもじって

原則1「自分を守れ」

原則2「原則1に反しない限り、家族を守れ」

原則3「原則1・2に反しない限り、患者を守れ」

を謳っています。(…AI7原則の方がよかったかなあ)

会員と県民の皆様の心身ともに健やかなることを祈念しております。

「5つの場面」に気をつけよう



CONTENTS

会報部よりあいさつ 1

スマートライフで動き出す 2～3

●リハビリテーション専門職団体協議会担当理事 磯野 賢 副会長

●学術担当理事 高村 浩司 副会長

訪問リハビリの理学療法士さん 4～5

●石和温泉病院 訪問リハビリテーション室 松島 隼人

●訪問看護ステーション かいじ 代表 松本 英成

日本理学療法士協会 感謝状表彰を受けて 6～7

●地域ケア・リハビリ研究所 グッドライフやまなし 代表 藤本 欽也

●深澤 昭

活動報告 8～10

Before COVID-19 After COVID-19 11

お知らせ ●事務管理局 12～13

リレーエッセイ Part39 14～15

原稿募集 14 編集後記 15

START MOVING SMART LIFE

WITH・コロナ時代の新しい生活様式「スマートライフ」

スマート
ライフで
動き出す



山梨県理学療法士会
山梨県リハビリテーション専門職
団体協議会担当理事・副会長

磯野 賢

『山梨県リハビリテーション専門職 団体協議会理事の立場から』

この度「スマートライフで動き出す」というテーマをいただき書き出したところですが、PCR陽性者は、日ごとに増え、JPTA研修開催指針はステージ4からステージ3(2020年12月1日)に変更となり、緊急事態宣言を再度出すべきではないかとの議論がされている真只中にあります。第3波の大波により混乱を極めていたところでした。

このような状況下においては、まず自分が感染しないことそして院内・施設に持ち込まないことが最優先であり、それ以外のことは二の次になってしまうのが現状だと思います。そのため、先に述べさせていただくとすれば「スマートライフで動き出す」の明確な答えとなるものが今ありません。ただ言えるのは、日常生活は変わっても、理学療法を必要とする患者・利用者は変わらずそこにいらっしゃり、我々は、全力でそこに向かうのが使命であり、動き出すというよりは歩みを止めるわけにはいかないというのが正しいのかもしれません。

ほぼこの一年新型コロナと付き合うようになり、多くのことを学び、良くも悪くも多くのやり方を変え知恵を絞り、形は変わったものの継続することが出来たものも多いのではないのでしょうか。そういう意味では、困難に直面すると人間はただあきらめるのではなく、どうにかして壁を乗り越えようとする動物で、それにより新しい文化が生まれるのだと強く感じました。専門職団体協議会では、当初活動が大きく制限され、中止とするものも多かったものの、ZOOMでの会議開催が当たり前となり、Webでの研修会の開催も定着して来ました。そのため、県からの委託事業も形を変え実施しており、来年度は今年度延期とした3士会合同学術大会を開催します。

ここには、困難な状況でも歩みを止めることなく、賢く動くという思いを込めたいと思います。誰も学びを止めるものはいません。臨床で学び、先人たちの英知が詰まった書物で学び、論文で学び、また臨床に帰す。その繰り返しこそが大いなる学びの場と考えます。常に学び続け、必要とする方に向かい、必要とされる者へと進化し続けましょう。

START MOVING SMART LIFE

WITH・コロナ時代の新しい生活様式「スマートライフ」

スマート
ライフで
動き出す



山梨県理学療法士会
学術担当理事・副会長

高村 浩司

『学術担当理事の立場から』

現在、新型コロナウイルス感染症は終息の気配が見えずこの原稿を依頼された11月の時点では日本理学療法士協会の研修会開催指針はステージ4でした。ステージ4は適切な感染予防策を講じたうえで、収容定員の半分以上であれば研修会が可能というものです。しかしながらその後に第3波は勢いを増し、12月1日にはステージ3へ、今年に入って1月12日にはステージ2へ修正されました。ステージ2は、県外への受講は制限され、リモートによる開催が推奨されている状況です。

学術活動を行う上で研修会の受講はとても大切なものと理解されていますが、マイケル・ロンバルドとロバート・アイチンガーは「人はおよそ70%を経験から学び、20%は上司・先輩からの助言・フィードバックから学び、10%は研修や書籍などから学ぶ」と提唱しました。この法則は「70:20:10の法則」と呼ばれています。この理論では、我々の「学び」は普段の臨床場面による対象者との中で生じるものと考えてよいでしょう。では、「経験」はただ単に多くの対象者に対して理学療法を経験すれば良いのでしょうか。

組織行動学者のデービッド・コルブが提唱した経験学習モデルは、「経験→省察→概念化→実践」の4段階サイクルを繰り返すことによって、人は学び成長していくと考えられています。1段階目の「経験」は、具体的な経験をすること、自分で考えて、自分で動いて、自分で結果を受け入れることが大切だと述べています。問題なのは、自分で体験しないで分かったつもりになって、机上で理屈を振り回すことです。2段階目の「省察」はその経験を多様な観点から振り返ること、一言でいうと自分自身の思考の振り返りとなるのでしょうか。第3段階目は「概念化」で他でも応用できるよう自分の未来や、他の人が使えるように教訓にすること。最後に「実践」です。概念化によって生み出した理論は、まだ仮説の段階であり、これを本格導入する前に実践して検証、手直しする作業が必要であるといわれています。

なかなか思うように学びの機会が得られない今の状況だからできること…それは目の前にいる対象者としっかり向き合い、対象者から学ぶ理学療法の初心にかえることではないのでしょうか。

訪問リハビリの理学療法士さん 新型コロナウイルスに関わる悩み

CASE 1

～石和温泉病院では～

12月下旬の現在、全国の新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、第3波到来の様相を呈しています。また、山梨県内でも12月の新型コロナウイルスの新規感染者数が140名を超え、月別の最多となっており1日での感染者数も過去最多となる日が出ています。

当事業所スタッフの感染予防対策として、検温や体調確認、不要・不急の外出自粛、全職員マスク着用など日々の感染予防対策を徹底しています。また、訪問時にはサービス提供前後での手洗いと消毒、必要に応じてゴーグルの着用、ご利用者様やご家族様へ検温の実施、サービス提供中のマスクの着用や手洗い・消毒の協力要請などの感染予防対策を行っています。

さて、今回いただいた内容である「新型コロナウイルスに関わる悩み」では、当事業所訪問リハビリスタッフ間で共通している悩みとして、①ご利用者様のご家族様が、定期的な受診同行や様子の確認などのため感染拡大地域から帰省されている場合どう対応したら良いか。②ご利用者様の同居ご家族様が濃厚接触者と認められた場合や疑われる症状がある場合どう対応したらよいか。また、それらの内容が訪問前ではなく、訪問時に確認された時どう対応すれば良いか。③スタッフ自身がもし感染したらという不安がある。との内容が挙がりました。

事業所として、感染予防対策を実行している中で、ご利用者様やご家族様に対して、マスク着用や手洗い・消毒だけでなく、どこまでの協力をお願いするべきかが悩みの中心となっています。協力要請としては、事前に書類と口頭で内容をお伝えしていますが、サービス提供場所が家であることで、対策の徹底は難しい面もみられています。

今後もスタッフやご利用者様・ご家族様の悩みや不安を減らせるように、感染予防対策の徹底や感染症に関する最新の情報収集を行いながら、日々の業務に努められるようスタッフ一同団結して取り組んでいきたいと思っています。

石和温泉病院 訪問リハビリテーション室 松島 隼人

CASE 2

～訪問看護ステーションかいじでは～

【当事業所での新型コロナウイルス感染防止対策について】

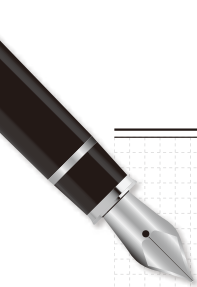
一昨年11月末に成田空港検疫の新型肺炎ウイルス上陸情報が看護師の間で噂として漏出してきてから早1年が経過し、医療福祉介護分野で奮闘していらっしゃる皆さまは日々苦労の連続かと存じます。特に急性期病院に籍を置かれている方々の奮闘には遠く及びませんがこの機会に標記の件について記してみます。

当事業所は峡東方面で細々運営を続けている小さな事業所です。看護主体の事業所ですので当然標準予防策は継続しており、ノロウイルスと新型インフルエンザ対策を年中やっているようなものですから特別なものはありません。出勤前に管理者へ職員の体温含め体調の連絡を義務付け、家族の体調不良時にも休暇を積極的に取得してもらっています。

その上で昨年2月にテレワーク体制へと勤務形態を移行しました。自宅からの直行直帰で業務にあたってもらい、現在に至るまで電話番で週に数回半日ずつ出勤してもらう以外は基本的に職員は事務所に二人以上いないよう勤務体制の調整を続けています。また実際のサービス提供場面では訪問利用者のご家族が都内から発熱し帰ってきたとの話が聞かれた時には緊急性を要する訪問以外サービス提供休止といった措置をとることもありました。以前、某病院長が集団感染後に今後職員のプライベートを制限しなければならないと嘆かれていましたが、当事業所では小規模だけに一人でも感染を出してしまえば風評被害も含め事業継続困難となりますので、第一波の感染拡大前から医療従事者としての自覚を確認し感染予防への意識を職員には強く持ってもらっています。当然代表の私も一年以上お店で吞めていません。

今回の新型コロナウイルスは生存にかけては非常に頭がよいウイルスに感じます。元来冬の風邪の数割はコロナウイルスだったようですが感染を広げる形態が非常にうまい。身近な人々を亡くさない為には自らの免疫を上げた状態を継続しなければならないと思っています。よく食べよく眠りよく笑い、腸の調子を崩さない、陽に当たりよく運動するといった生活リズムを保つには自立以上に自律が求められるのだと思います。山梨県は他県に比べれば皆の努力が形になっているようですが皆がワクチンで抗体ができるまでは油断せず感染防止に努めたいところです。

訪問看護ステーションかいじ 代表 松本 英成



日本理学療法士協会 感謝状表彰を受けて

日本理学療法士協会より「50年以上にわたり本会の会員として後進の育成に尽力し、他の模範となるもの」として、山梨県理学療法士会から2名の先生が、感謝状表彰をされました。日本の理学療法黎明期を牽引されてきた先生方です。



地域ケア・リハビリ研究所 グットライフやまなし代表

藤本 欽也

この度、PT協会より表彰状を戴くこととなり感謝申し上げます。

顧みればWHO勧告のもと、1963年我が国初のPT・OT養成校「国立東京病院附属リハビリテーション学院」創立。第3回卒業(1968年・昭和43年)、島津壽秀先生のお誘いを受け、帰郷(徳島県)を変更、甲州中央温泉病院(現甲州リハビリテーション病院)に就職。時代的に、1964年第1回日本リハ医学会。65年PT・OT法施行、66年日本PT協会・OT協会設立。第1回PT学会、71年山梨PT士会誕生。まさに近代リハビリテーション(以下リハ)の黎明期。めまぐるしく変化する時代、多くの出会・研鑽で今日に至り半世紀超となりました。リハも、サイエンス・テクノロジーの飛躍的進歩・発展、様々な分野でマンパワー輩出、実に隔世の感、感慨深いものがあります。その中で特に二人の恩師と出会い、教示・教訓を得たことは私にとり真に幸運でした。

初代リハ学院長、砂原茂一先生(1988年永眠・80歳)には「リハの理念」。甲州リハ病院、島津壽秀先生(2019年永眠・99歳)には「リハの実践」。

砂原先生:「リハ医学というのは障害学であり、全人間的医学である。リハの全人間的な観点、生物的存在としての人間にとどまらず、精神的存在、社会的存在としての人間をターゲットとする点だ。単なる技術の体系としてではなく、思想と技術との統合。従来の生命の量の医学に対する質の医学として。ある意味で、従来の臨床医学のアンチテーゼとして発生した。」と述べられた。指針「philosophy・理念・哲学」は、Q.O.L.(生命の量・質)に言及するのみならず、S.O.L.(Sanctity of life:生命の神聖さ・尊厳、人間の尊厳)というものが存在する。ということ忘れてはならない」と述べられた。

島津先生:1965年山梨県石和町で、「リハ専門病院を開院」。以来、保健・医療・福祉のネットワーク構築。「地域に根差し、地域に開かれ、地域の人々と共にある施設を目指す」ことを指針、理念をもち、近代リハの黎明期から、未知の新分野に起業、事業を展開してきた先駆者。リハ医療を中心としつつ、多様な新たに発生してくるニーズに対しフロンティアスピリッツをもって実現に行動実行してきた先生。約30年間勤務し、叱咤激励を受けつつ私もPTとしてスタッフと共に参加することができ誠に幸いでした。

以後約20年間、目指すものは「全人間的にQ.O.L・S.O.L.の追求」にあること、時代がどのように移ろうともコアなものは普遍的に存在する。ということを経験とし、地域リハ等の活動支援に様々な形態で私なりに努力してきました。そこにはリハ関係者の方々に及ばず多くに師事を受けて今日に至りましたことは感謝に他なりません。

現在、山梨PT士会活動では他分野との交流・研修がなされていることは全国的にも注目されています。地域・コミュニティに根差したチーム・ネットワーク構築が求められています。今日、ターミナルケア、難病、Dementia等々で課題山積。社会のあらゆるところで、リハの再認識が求められています。皆様の今後の活躍を大いに期待しています。

深沢 昭

深沢先生は現在、執筆が難しいとのことで、電話からのお言葉を代筆させていただきました。実はスマートフォンの録音機能を使用しようとしたのですが、操作ミスで手記のみを文字に起こしました。私の聴理解の確かさは疑わしいですが、深沢先生の真意が曲がっていないことを願います。

2020年12月9日 a.m. 9:53

深沢 昭先生

50年も理学療法士として仕事につかせていただきありがたいと思っております。(少し思案して…)

協会に所属して53年、ご丁寧な感謝の印を頂いて嬉しく思い、また恐縮しているところです。実は軽い脳梗塞を患い、新型コロナの影響もあって、何も出席できずに家で生活している状況です。コロナ禍の中、会の運営をしている先生方のご苦勞、痛み入ります。本会の益々の発展と先生方のご健康をお祈りしています。

(フリートーク)

わざわざご丁寧にお電話いただきありがとうございます。いつもは耳が遠いのですが、今日ははっきり聞こえます。士会の方々にもお電話いただいてありがとうございます。よろしくお伝えください。「あけぼの」でも13年近く働きました。子供のハビリテーション、とても楽しく働かせていただきました。

インタビュアーの雑感

インタビュアーと話している端々に、感謝と恐縮、会で働く先生方を気遣っておられました。

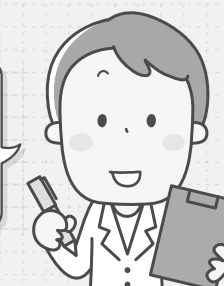
「実るほど頭を垂れる稲穂かな」

理学療法士21歳の私などに。まだまだ未熟者の私も深沢先生のような紳士な、また真摯な振る舞いができるように努力しなければと電話を終えた後、自分を見つめ直す。

「とても楽しく働かせていただきました」

そうだ、理学療法って楽しいものだった。原因が分かった時の喜び。どう解決するかと思案。良くなった時の達成感。何より、その時の患者の笑顔。マニュアル本や、ガイドラインは引用や、参考、参照すべきだがそれが全てじゃない。もっと自由に考えて良いものだったと今更ながら原点に戻る。

藤本欽也先生、深沢昭先生、ご両名の貴重なお話、身に染みます。感謝状表彰、誠におめでとうございました。益々のご健勝、ご健康をお祈りしております。



特別支援教育委員会

山梨県リハビリテーション専門職団体協議会の特別支援教育委員会では、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、Web研修会が令和2年12月10日(木)19:00から開催されました。この研修会は、県庁の教育機関・教諭・PT・OT・STといった多職種における情報共有をする貴重な機会となりました。参加者は、68名(内訳:PT20名、OT15名、ST8名、教員25名)でした。



発達障害をもつ子ども達の学習を考える ～お勉強会の取り組み～

甲府共立診療所 作業療法士 木村 千優
石和共立病院 言語聴覚士 本間 隆之



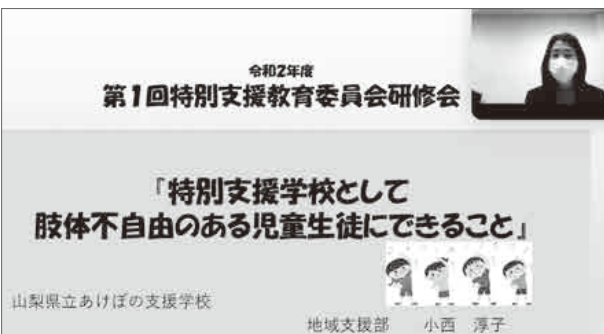
講師として、山梨県教育庁高校改革 特別支援教育課 主幹・指導主事 木村則夫先生が「山梨県の特別支援学校における専門家活用の現状と課題」についてご講演されました。発達障害や情緒障害を含め特別支援学校の需要は増えている現状にあり、専門家活用の件数は増えている現状でした。相談窓口は、各支援学校の特別支援地域コーディネーターの教諭から各専門家につ

ながっていくというセンター的機能が組織化されていることを提示されました。

山梨県立あけぼの支援学校の地域支援部(昨年まで特別教育地域コーディネーター)の小西淳子先生は、「特別支援学校として肢体不自由のある生徒児童にできること」として事例報告されました。学校での専門家活用の様子や1人の生徒に対して医療機関や市町村の保健師など様々な方々が支援する体制を組んでいること、障害者スポーツ(車いすバスケットなど)の取り組みが紹介されました。学校は、生徒自身が身体に向き合い身体のことを学ぶという機会があり、関係者は生徒や保護者に寄り添い、肯定的に活かす学びの場であること、主役である生徒自身がどのように感じどうしたいのかを大切に温め育むという姿勢を大切にしているということでした。他に、PTから「医療との連携」として、術後の生徒の病院への訪問支援から学校での具体的ななかかわり方を医療と連携をとりながら行った事例報告や、OTとSTからは、「発達障害をもつ子供たちの学習を考える～お勉強会の事例取り組み～」の事例報告がありました。

今後も一人の生徒を取り巻く多職種のつながりは必須で、生徒を中心に教育現場の質をより追及される教諭やご家族の困り感や不安に解決の糸口を提案できる専門家であることが望まれていると感じています。子どもたちのよりよい学びの環境づくりのためにも、1人でも多くの方に地域における個別的な人の発達に興味・関心を持っていただけることを願います。

★ お問い合わせ先：特別支援教育委員会委員長 高村 裕子 (hiroko1140708@yahoo.co.jp)



災害対策支援委員会



皆さんは、災害の現場で理学療法士がどのような活動をするのかイメージできますか？規模にもよりますが発災直後に活動することは少なく、発災から3日程経ち、避難所が開設され始める頃に活動要請があります。衛生面の観点から避難所のトイレと生活空間は離れており、移動に不安がある方には過ごし難い環境です。車椅子を使用する場合でも、車椅子一台がやっと通過できる程度の幅しかないこともあります。

また、避難所では生活環境の変化で身体的・精神的ストレスにより生活不活発病や不眠や疲労感等、体調を崩される方もいます。皆さんは車椅子が方向転換するために必要な広さや生活不活発病を予防する活動をご存じのことでしょう。皆さんの知識が避難所設営(運営)には必要です。

災害はいつ起こるか分かりません。平時から準備(イメージ)しておくことが大切です。現在3名で活動していますが、災害医療に興味のある方は是非一緒に活動をしていただければ嬉しいです。



★ お問い合わせ先：災害対策支援委員会委員長 大野 了資
(峡南医療センター富士川病院 fk-rehabili@kyonan-mc.jp)

学術研修局 学術研修部発

今年度より学術研修部の部長に着任いたしました帝京科学大学の渡邊と申します。今後とも、よろしくお願いいたします。

さて、今年度の学術研修部ではCOVID-19感染拡大の影響を鑑みて、例年4回実施している学術研修会を2回に縮小した上で全てオンラインにて開催致します。学術研修会のオンライン化に伴い、大変ご迷惑をお掛けしますことを心からお詫び申し上げます。

COVID-19により様々な事業のオンライン化は、急激に加速度を増し、私自身、理学療法士としても教職員としても世の中の変化に順応していかなければならないと痛感しております。来年度の学術研修部では全4回の研修会を開催する予定です。社会的情勢を注視しつつ、オンライン研修と並行して対面による研修会開催についても準備・検討していく予定ですので、その際は多くの先生方のご参加をお待ちしております。

最後に、この状況が一日でも早く終息へ向かいますことと、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

★ お問い合わせ先：学術研修局 学術研修部長 渡邊 修司
(帝京科学大学 s-watanabe@ntu.ac.jp)



生涯学習局 新人教育研修部発

□ 新人教育プログラムを受けて

新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、2020年度の新人教育プログラムはオンラインにて講義をしていただきました。山梨リハビリテーション病院の笠井雄太先生には、新人教育プログラムを含め、生涯学習の概要や認定・専門理学療法士の専門領域について講義をしていただきました。理学療法

法の中には様々な専門的分野があり、その中で興味のある分野を選択し、知識や技術を深めていきたいと思いました。甲斐リハビリテーションクリニックの北山哲也先生には、人間関係及び接遇について講義をしていただきました。相手をもてなし、思いやりの気持ちを持って職場の人や患者様との人間関係を構築することが大切だと実感しました。今回の新人教育プログラムで学んだことを生かして、患者様へより良い治療が提供できるように、学習を継続していこうと思いました。今後は、山梨県の理学療法士の一員として、常に向上心を忘れずに一生懸命頑張っていきたいと思います。

山梨リハビリテーション病院 瀬田 蓮人



今年度入会の会員は見慣れぬ風景でしょうか？多くの会員方と一緒に何かを催すことは、時に楽しく時に苦しく、成し遂げた時は心地よい疲れと、仲間との一体感と、言葉にできない達成感がおとずれました。



BEFORE COVID-19



第4講 「傾いた垂直性」 Pusher現象をめぐるって



AFTER

ICTを利用した活動。歳の若い会員の方が、ICT様式の様々な催しに慣れ親しんでいるようですね。私のようなおじさん世代には、操作方法から困惑いたしますし、違和感が強いです。しかし様々な分野で今後オンライン、オフラインの併用が主流になることを予想しています。今はスティーブン・スピルバーグ監督、「レディ・プレイヤー1」(時代背景2045年)の前段階でしょうか。我々の生活を否応なく急変させたCOVID-19。治療薬が完成し克服した近い将来こそ、本当の意味で「AC」といった表現ができるのではと思います。





事務管理局からのお知らせ

= 重要なお知らせ =

◆ 会費の納入期限について

2021年度分の会費の納入期限は2021年(令和3年)3月中になります。

楽天カード、口座振替の会員については、3月中に引き落としになります。

引落登録のない会員については、2021年3月上旬から、振込用紙が順次発送されます。

注意:振込用紙を利用されている会員につきましては、

用紙到着から納入までの期限が短くなっています。

3月末までに納入のなかった場合は、4月から会員権利の全面停止、

6月末までに納入のなかった会員につきましては、会員資格喪失により退会、となります。

- *退会となった場合、これまで獲得した生涯学習ポイント等はすべて失効となります。
- 再度在会を希望した場合は「新入会」となり新人教育プログラムからの再履修が必要です。

◆「4月以降の異動が決定した場合(特に県外へ)」は、可能な限り早めの申請をお願いします。

◆「休会、退会」を希望される会員は、2021年3月31日までに手続きをして下さい。

- *期間内に手続きが完了した場合は、引落決済確定後も後日返金されます。
- *年会費納入確定後4月2日以降に申請をされた場合は、返金されませんのでご注意ください。
- *休会については1年毎の申請が必要です。

会員情報の変更手続き(異動、休会、退会、会費納入方法等)については、

協会HPの「マイページ」から手続きを行ってください。

マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行したIDとパスワードが必要です。

「IDやパスワードがわからない」という方は、協会HPから

再発行の手続きをお願いいたします。

「そもそもインターネット環境が無い」という会員の方は、

お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。

(公社)日本理学療法士協会 TEL:03-5843-1747

- *会員情報につきましては、(公社)日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理されているため、県士会単位では対応できません。

◆(公社)日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があります。

詳細は日本理学療法士協会HP「年会費」をご覧ください。

◆ 会員の慶弔があった場合について

一般社団法人山梨県理学療法士会 慶弔規定に基づき対応いたします。

山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある

「会員慶事通知フォーム」、「会員弔事通知フォーム」からお願いします。

◆ 事務管理局への問い合わせについて

山梨県士会HPの「事務管理局への問い合わせ」メールフォームからお願いいたします。

インターネット環境がない会員の方は、

山梨県立あけぼの医療福祉センター 療法科内 担当 有泉

TEL:0551-22-6112(療法科直通)までお願いします。

◆ メール配信について、アドレス登録のお願い

令和2年9月1日から当士会独自のメール配信システムを稼働しました。

令和3年4月(新年度)からは「紙文書による通知は廃止」、「原則メール配信のみによる通知」となります。

会員の皆様には、アドレス登録についてご協力いただきますようお願いいたします。

- ・登録メールアドレスは1会員1アドレスでお願いします。
- ・一度登録したアドレスを変更する場合は、登録解除フォームにて登録メールを解除後に、新しいアドレスを登録しなおしてください。

メール登録フォームURL:

<http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showRegisterForm?gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf>



登録メール解除フォームURL:

<http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showUnregisterForm?gpId=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf>



- ◆ インターネット環境が無いなどでメール受信が困難な方は事務管理局までご連絡ください。これまでどおり紙文書での通知を行います。



途絶えることのないバトンを君に /

リレーエッセイ

『リレーエッセイ』
とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前の Supporters にあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

Part 39-1

身延山病院 鈴木 由美

南部町役場の金森先生からご紹介頂きました、身延山病院の鈴木由美です。

私が PT になっていつの間にか20年が経ちました。令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大により、かつてない回数の体温測定やアルコール消毒を行い、年々潤いが減っていく私のお肌には辛い状況が続いています。この1年各方面で自粛が相次ぎ、子供達の学校行事や部活の大会も大幅な変更が余儀なくされ、私が密かに楽しみにしている子供の部活（バレーボール）の写真を撮影する事が出来ないのも、過去に撮り貯めた写真を見直して、画像を楽しみつつ、また今までのように大会に行って良い写真が撮れるよう撮影方法を研究しています。早く感染拡大が治まり、今までの生活が取り戻せるように祈っています。

今回は、山梨の一番南から一番東へ…。上野原市立病院の澤田誠先生にバトンを渡します。宜しくお願いします。

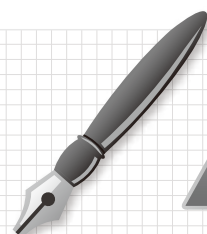


原稿を募集しています！

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

● 問い合わせ先：広報局 会報部 宇月正明
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
TEL：0553-26-4126 FAX：0553-26-4366
E-mail：kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※ 第158号発行は、
2021年9月を予定しています。

原稿の締め切りは

7月中旬です。

リレーエッセイ

Part 39-2

健康科学大学 坂本 祐太



大月市立病院の馬場大介先生よりバトンを頂きました、健康科学大学の坂本祐太です。

2020年度はCOVID-19の影響により、リモートワーク、オンライン会議など、インターネットを介する機会が大きく増加いたしました。大

学においても、オンラインを利用した従来と異なる授業方法がとられています。その状況下で驚いたのは、学生の適応力です。ある学生は現物のノートに学習内容をまとめるのではなく、タブレット機器でPDF資料の重要点を切り出してコメントを入れて、授業ノートを作成しておりました。後に問題を作成し、苦手な部分を反復する個別問題集を簡単に作成できるそうです。正確な調査はしていませんが、最上級生では2割ほどの学生がPCやタブレットを駆使した勉強方法をとっています。様々なパラダイムシフトに対して、私も適応する力が試されていると実感いたしました。

今回は、石和共立病院の浅井敬太先生へバトンをお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

編集後記



全ての医療・福祉に従事している方々と、COVID-19にまつわる対応で、ご多忙にもかかわらず快く執筆をいただいた諸先生方に感謝申し上げます。

さて本嫌いで読書感想文も書けなかった私が、30歳を過ぎて書痴とは言えないが、よく読書をします。最近では理学療法士として何の役に立つのかわからない科学本を読んでいます。ループ量子重力理論の創始者、カルロ・ロヴェッリ著書の「時間は存在しない」を読み、今ある科学は過去の科学の積み重ねなんだと思える本でした。本中、アインシュタインの相対論の説明で、山頂と平地では時間の進みが変わると（高質量の物体周囲は時間の流れが遅くなる）。時間自体が相対的で「伸び縮み」する。カルロはこういった事象が「我々のぼやけた脳では認識できない」と皮肉に表現します。ちなみに私は「脳」だけでなく「目」もぼやけている。盲いるまで本を読もうと思います。

また会報誌発行の際には引き続きご協力をお願いいたします。

宇月 正明

- 【発行】 一般社団法人 山梨県理学療法士会
【代表】 小林 伸一
【企画・校正】 宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 立澤 俊貴 一瀬 智之
【編集・印刷】 株式会社 たけまる
【会報部】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
医療法人 景雲会 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp

